

稚内南小学校だより「まこと」



第8号

■発行日 令和7年12月1日
■発行者 稚内市立稚内南小学校
■Tel 0162-23-3329 FAX 22-7924
■HP:

<https://wakkanai-minami-e.edumap.jp/>

■QRコード



適切な言語環境づくりについて

稚内南小学校長

先日、放課後に国語科単元テストの丸付けをしていた教員が、「この言葉をわからないのか・・・」とつぶやいている場面を私は見ました。教員が言うには、その学年の発達段階では知っているのが普通である言葉のようでした。その教員と会話を続ける中で、二人とも気になったことが、「学校や学童保育所以外の場で、他者との会話がどのくらいあるのだろうか？」ということでした。大人も子どもも情報端末を一人一台所持するのが当たり前のこととなりつつある中、なかなかそれらから離れられずに日常生活に支障をきたすケースについての報道が度々なされているためです。

人は乳幼児期から耳に入ってくる言葉を繰り返し聞くことを通して、その言葉の意味を徐々に知り、時間をかけて自分でも活用することができるようになります。耳を通して接することのない言葉は、使えるようにはなりません。家庭の中や身近な人との乳幼児期からの言葉のやり取りを通して、子どもたちの「言葉」に関する理解力や活用能力は育まれます。それは小中学校期においても同様です。

11月14日に稚内市教育研究大会を南地区三校で開催し、本校には市内を中心に約50名の教職員が来校しました。私は大会を前に、改めて教職員に「校内での適切な言語環境づくり」をお願いしました。特に、初任段階の教職員には、児童の前での言葉づかいに留意するよう伝えました。本校でも言語環境を整えることには日ごろより努めており、教職員が自ら発する言葉づかいに注意を払うことはもちろん、児童にも発達の段階に応じた適切な言葉づかいを求めています。

「言葉に触れさせるのであれば、SNS等での文章を通してでもよいのではないか」と感じますが、ある識者は子どもからの「読書は本当に必要ですか？」との問いかけに次のように回答しています。

言葉を学ぶことは、『ふいに』というのは『前触れなく突然に』という意味」というように、辞書の意味として覚えていくだけでは難しいものです。「ふいに思い出した」「ふいに雨がふってきた」など、さまざまな文の中で使われているのに触れることで、言葉と言葉のネットワークが作られていきます。

書き言葉には、日常生活とは異なる言葉や言い回しがあります。本を読むことは、この言葉のネットワークを作るのにとても良い方法なのです。重要なのは「書き言葉」に触れることです。(道新9月24日 北大大学院教育学研究院 関教授のコメント)

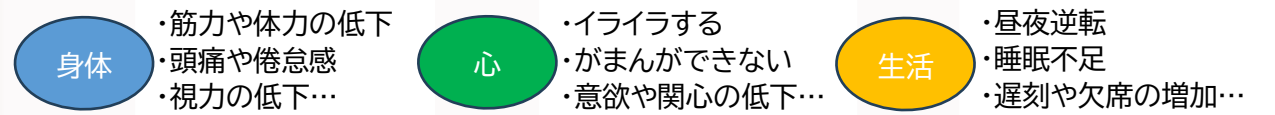
繰り返しになりますが、子ども達が言葉を覚える機会としては、学校での授業以外では周りの身近な人との会話や、メディアや読書などを通してが主になるかと思います。その中では、なるべく「後ろ向き言葉」や「マイナス言葉」ではなく、たくさんの「前向き言葉」や「プラス言葉」のシャワーを子どもたちに浴びさせたいものです。

現代社会ではSNS上でのやりとりが当たり前のこととなっていますが、直接の会話がコミュニケーションにおける重要な手段であることに変わりはありません。稚内市の子どもたちが、「場に応じた暖かい言葉づかい・言葉かけ」ができるよう、児童が生活するそれぞれの場で言語環境をよりよいものにしていければと思います。それが将来、子ども達がどこの地域に暮らすことになっても、自分たちの生活を明るく幸せなものにしていくことにつながります。学校もその役割を適切に担っていききたいと思います。

生活リズムアンケートから ～メディア依存による生活習慣の乱れ～

「生活リズムアンケート」の結果について、保健だより「すくすく」が発行されています。先月の学校便りでは、学校・家庭でのルール作りと管理について、お伝えしました。今月は、「メディアによる生活習慣の乱れ」について紹介します。

メディアへ触れる時間が多くなり、生活に支障が出る状態を「依存」といいます。ネットやゲームにかかる時間が長くなってくると、基本的な生活習慣に乱れが生じ、心身に様々な症状が出ます。



現代社会においては、青少年（10～17歳）の82.5%がインターネットを利用しています。そのような社会で暮らしていくのに、インターネットを使わずに生きていくことは現実的ではありません。『インターネットと上手く付き合っていく』ことを目指していきましょう。

通級指導教室について

先日、マチコミメールにおいても記載しましたが、稚内南小学校には、校内に通級指導教室があります。

- ・注意があちこちにいつてしまい、集中できない。
 - ・お友達とトラブルになりやすい。
 - ・思ったことをすぐ言ってしまう。
 - ・急な予定変更をされるのが苦手。
 - ・聞いた話を聞きもらすことが多い。
 - ・漢字の読み書き、音読、計算などの特定の学習のみ極端に苦手。
 - ・ノートをうまく書くことができない。
- など

これらの課題に応じた、一人一人に応じた指導を受けられるのが「通級指導教室」です。もし、気になることや相談したいことがあれば、担任もしくは校内特別支援教育コーディネーター（池田、高桑）までご相談ください。

12月の行事予定

日	曜	行 事 予 定
1日	月	どさん子ども会議（児童会書記局参加）
2日	火	短縮日課
3日	水	個別懇談④
4日	木	個別懇談⑤
5日	金	個別懇談⑥ 3年警察署見学
6日	土	算数検定
9日	火	ニコタイ
10日	水	学力検査（国）
11日	木	学力検査（算）
12日	金	活動委員会 歯科保健指導（2年）
13日	土	手をつなぐ子らの作品展
17日	水	1年生読み聞かせ（図書館職員来校）
18日	木	参観日（1・3年）
19日	金	参観日（2・6年）
22日	月	参観日（4・5年・きらり）
24日	水	大掃除
25日	木	終業式
26日	金	冬季休業（～1月14日）

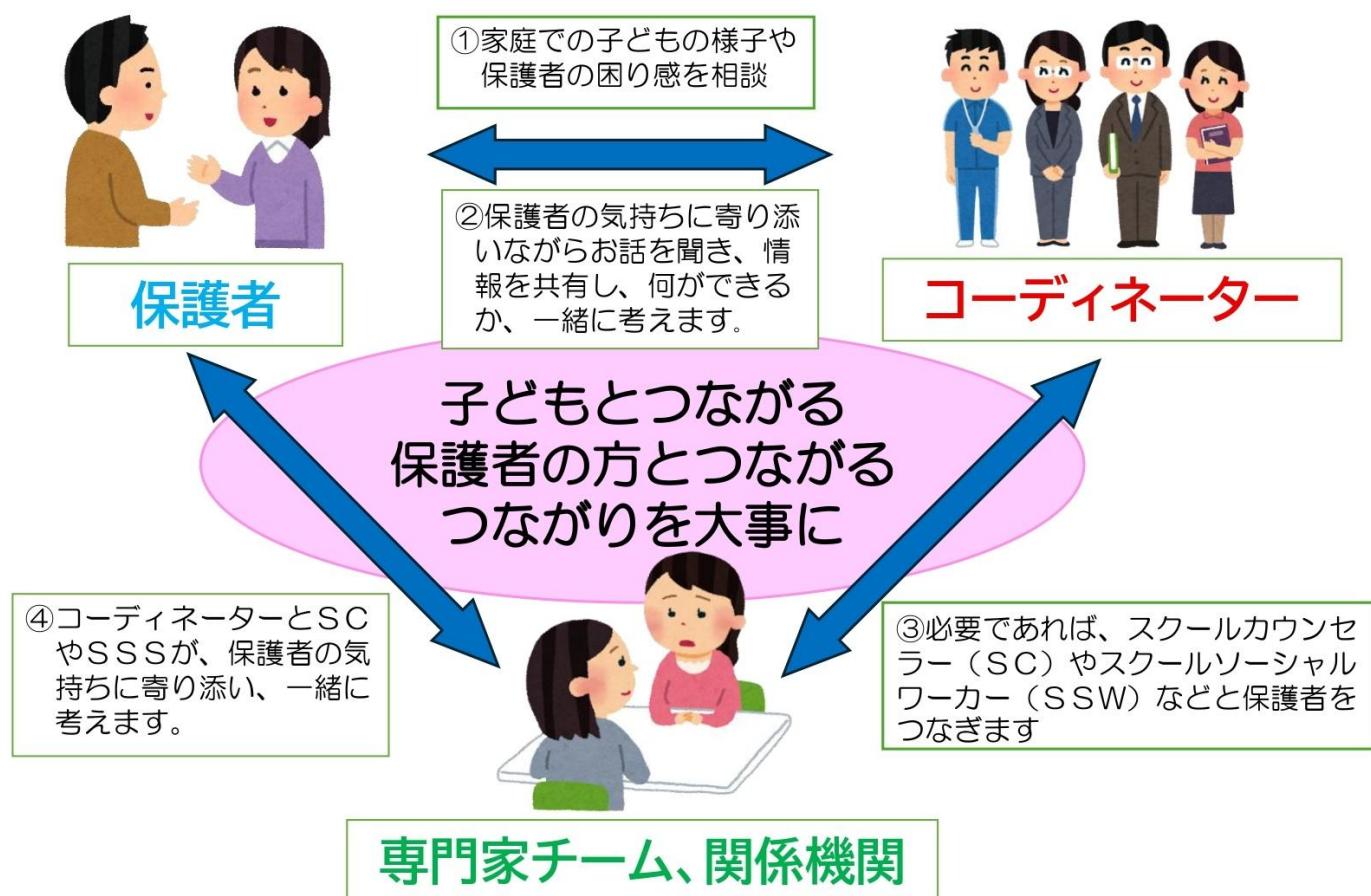
保護者の皆様へ ～学校閉庁日について～

学校閉庁日は12月29日（月）～1月6日（火）までです。この期間は教職員が不在となりますので、緊急の連絡が必要な場合は、教育委員会（23-6519）にお願いします。

校内特別支援教育コーディネーターをご存じですか？

稚内南小学校では、「校内特別支援教育コーディネーター」を設置しています。校内での主な業務内容は、

- 子どもたちの居場所作り
- 関係機関との連携
- 保護者の方の相談窓口（お子さんのことを中心に、気になっていることや悩んでいることを共有し、一緒に考えます）※必要であれば、SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）とつなげます。



特別支援教育コーディネーターが最も大事にしていることが「子どもたちとつながる」「保護者とつながる」などの「つながり」です。困っている子どもたちの居場所を作り、話を聞いて安心して学校生活を送れるようにすることや、保護者の方の日ごろ困っていることやお子さんのことで気になっていることなどを親身になって聞き、一緒に解決策を考えていくことも特別支援教育コーディネーターの仕事の一つです。

相談したいことがありましたら、どんな小さいことでも構いませんので、稚内南小学校校内特別支援教育コーディネーター（池田、高桑）までご連絡ください。

（相談の例）

- お子さんのことで、日々困っていることや、悩みを聞いてほしいが、どこに相談していいかわからない。などなど・・・
- 子どもたちの成長や支えていくために一緒に「つながり」ましょう！